

経営比較分析表（令和2年度決算）

岐阜県 富加町

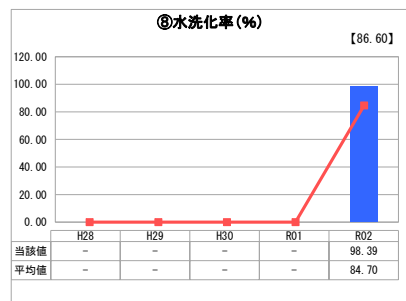
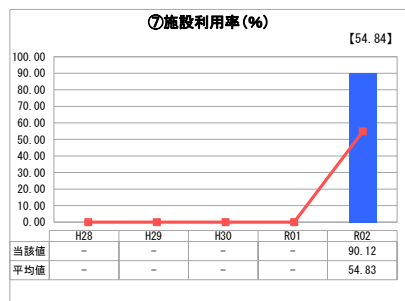
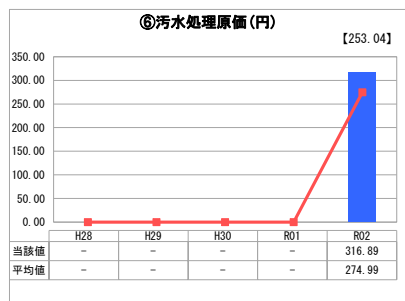
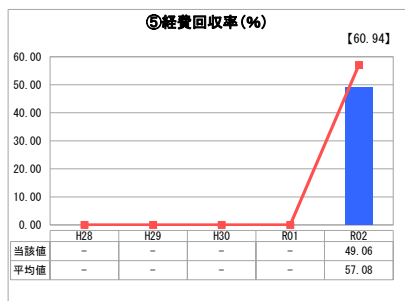
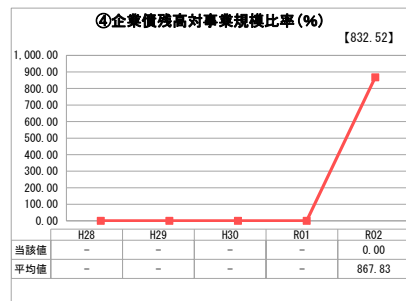
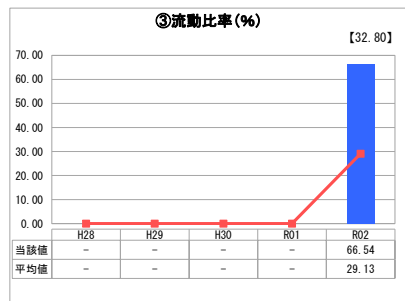
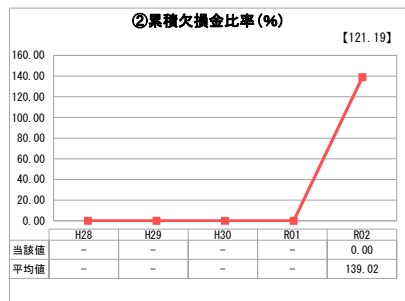
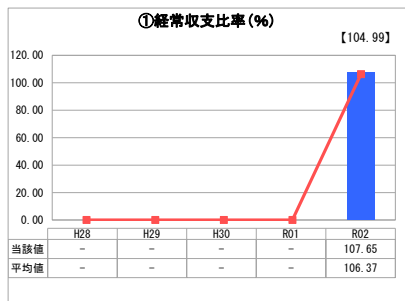
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	88.17	37.09	67.25	3,410

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,751	16.82	341.91
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,114	2.21	956.56

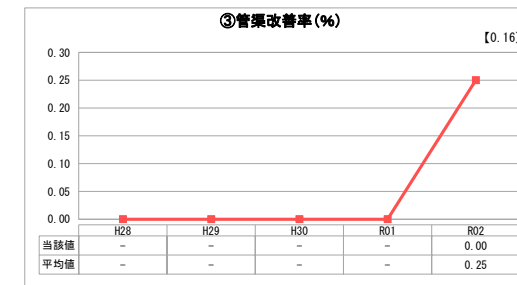
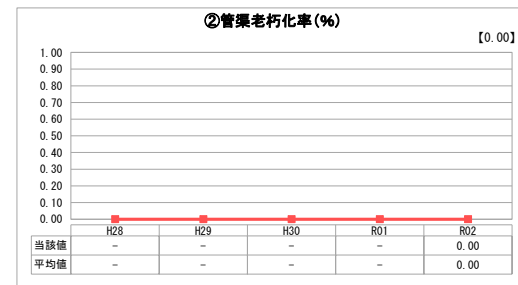
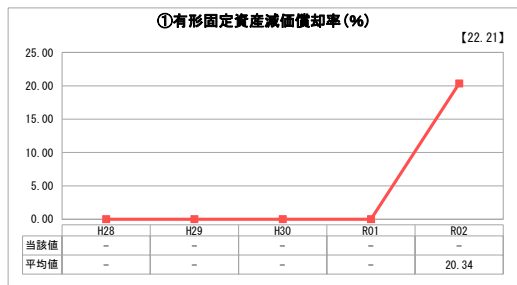
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①、②、④から類似団体の中でも健全であると言える。しかし、今後老朽化が進み、更新に費用を要することになれば、使用料等の見直し等が必要になってくるため、分析を行っていく。
③から類似団体と比較すると平均値より上回っているが、100%を目指して分析を行う必要がある。
⑤から類似団体の中でも数値としては低く、使用料で随うべき費用が随っていないため、適正な使用料収入の確保や費用の削減に努める。
⑥から類似団体よりも数値が高いため、不明水調査等を実施し、数値の低下を図る。
⑦から類似団体の中でも健全であるといえる。⑧の状況、有収水量や汚水処理費の変化に応じた分析を行う必要がある。
⑧から水洗化率が高いと言える。今後とも水洗化の啓発を行っていく。

2. 老朽化の状況について

最も古い施設の大山・井高クリーンセンターは平成4年に供用を開始しており、現在27年が経過している。処理場の電気設備、管渠等について、老朽化に伴う更新が早急に必要ではないが、機能診断等を行い適正に更新を助めていく必要がある。機能診断は、平成28年度に1施設行い、平成29年度に残りの3施設を行った。平成30年度に最悪整備構想を策定した。今後、各施設の計画的な更新を行う。

全体総括

経営の健全性については類似団体と比べて同等であるが、継続して健全性を保つためには維持管理費や使用料等を見直す必要があると言える。平成28年度に策定した経営戦略に則り、収支均衡を図る。

汚水処理構想策定の計画よりも地方債残高の実績が多くなっているのは、企業会計への準備のためだが、施設の老朽化により、修繕費の増大が予想されるため、最悪整備構想を参考に施設更新を行う。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。